様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月１９日現在

機関番号：23901
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2010
課題番号:20730340
研究課題名（和文）
現代の地域社会における一時的定住民の実態調査と社会的機能分析
研究課題名（英文）
Temporary Outsider Residents in Japanese Local Community
研究代表者
井戸　聡（IDO SATOSHI）
愛知県立大学・日本文化学部・准教授
研究者番号：40363907

研究成果の概要（和文）：本研究では、観光化･地域活性化した地域で特徴的に観察される、流動性･移動性の高い社会的集合に着目し、この集合を構成する人々の社会的動態、社会的性格や機能、地域社会との相互作用の実態について、社会学的アプローチによる調査研究からの実証的な究明を目指した。調査結果から、流動･移動性の高い社会的存在とは、Ｉターン･新規住民などの新規定住者、および季節労働者などの一時的定住者から成る集合であり、現代の地域社会を構成する特徴的な要素として地域社会を読み解く重要な因子であることが明らかとなった。来住者・一時的定住者、および彼（女）らを受け入れる地元民への聞き取り調査から、彼（女）らの個別の生活世界を浮かび上がらせるとともに、宿泊業主への質問票を用いた量的調査によって、彼（女）らの一般的・平均的な社会集団としての像を浮き彫りにした。彼（女）らは比較的年齢層の若い集団であり、伝統的宿泊業主にも非伝統的宿泊業主にも家族経営の宿泊業の構成員として受け入れられ、彼（女）らに対する配慮がなされるなどの社会関係が明らかとなった。

これらの研究成果の主なものとして、前年度までに行ってきた量的調査・質的調査の分析を踏まえ、平成 22 年 7 月に国際社会学会（VXII　ISA WORLD CONGRESS OF SOCIOLOGY, Gothenburg）において研究発表を行った（” Local community in a mountain village and the life course of youth in Japan”）また、11 月には第 83 回日本社会学会において研究発表を行った（「観光地における非典型労働者の地域的受容過程（１）」）。研究結果については調査地に対しては平成 23 年 2 月に報告書を作成して調査協力者に送付した。また、以上の研究についてまとめたものを論文として発表した（羽渕一代・井戸聡「若年流動層の地域的受容――白馬村の宿泊業調査――」『人文社会論叢（人文科学篇）』25 号、弘前大学人文学部、平成 23 年 2 月）

研究成果の概要（英文）：This research focuses on a social group with fluidity and mobility in local community which has especially developed into tourist area. Social mobility, social characteristics, social function, social interaction, were investigated by sociological method. The results of this research are as follows. A social group with fluidity and mobility is constituted of “I tune” people, newcomer residents, seasonal laborer. This distinct group constitutes current local community, so this group is an important factor to comprehend it. Their life world is clarified from interviews with this social group with fluidity and mobility and local residents who have accepted them. Characteristics of them emerged from research on hotel owners have accepted them. This group is comparatively young, accepted as family member of accommodation business of traditional hotel owner’s families and non-traditional hotel owner’s families that arrived from the external society.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000

年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：地域社会・村落・都市

１．研究開始当初の背景

現代において、一部の地域社会では地元社会外から人々が流入する現象が一般化している。本研究が主として対象とするのは一般的にＩターン・移住者・来住者・新規住民と称される新規定住者、および寄留者・季節労働者と称される一時的定住者から構成される社会的集合である。この種の人々を特徴づけるのは、短期間の滞在で移動する旅行者とは異なる、中長期に渡る定住あるいは半定住という点である。また一方で、この種の来住者の特徴的な性格として、地元定住者に対して相対的に流動・移動の志向が高い傾向があることが挙げられる。

さらにこの種の来住者は、地域活性化を願って観光化や交流事業などを進めた（あるいは進めざるを得なかった）地域社会に多く観察されることも特徴のひとつである。本研究はこの来住者・一時的定住者を選択的非定住民という社会的集合として捉え、フィールドワーク法による社会的動態の調査研究を行なうことによって彼・彼女らの実像を浮き彫りにすると同時に、この種の社会的存在の社会的機能、地域社会との社会的相互作用について考察し、地域社会研究や観光研究における議論に理論的な検討を加えることを目的としている。

これまで観光化や地域開発にともなって変容する現代の地域社会の動態について、具体的な個人への聞き取りや資料調査を中心とする研究を行ってきた。とりわけ、地域社会の人々の生活環境や地域文化についての認識のパターンの変化、その結果としての人々の集合的行為や実践の変化、生活環境保全や地域文化継承の実践の発生プロセスなどについて明らかにするために、社会学・人類学・民俗学的なアプローチからの調査研究を進めてきた。

現代の地域社会は、自律的な存立が困難になりつつあるなかで、観光化や地域活性化が求められる時代的要請のもとにおかれている。地域社会における観光化や地域活性化事業のインパクトによる地域コミュニティーの変容を論じる事例研究は、最近になり研究蓄積の進展がみられる領域であるが、いまだ十分であるとはいえない。たとえば、観光研究では海外の事例研究の蓄積、理論研究の進展に比べ、国内での社会学や地理学などの領域での研究の積み重ねは進められているとはいえ手薄な部分も少なくない。

観光研究の社会文化的な議論の流れは、巨視的な近代観光化論から、都市／地方関係やホスト／ゲスト関係の権力関係論、文化の客体化論などのミクロな視点へと移行してきた。つまり近代とは何かを問う大きな時代判断的な議論から地域アイデンティティや個人的経験の視点が重要視される方向へと移行してきた。これは国内における、外部資本が観光化の主導権を握る状況から内発的なグリーンツーリズム思潮への推移、さらに視覚中心の観光から体験や交流を志向する傾向へといった現実社会の動向と重なり、理論構成やアプローチの深化といえる。ただし、これまでの議論では、中央／地方、都市／地域、ホスト／ゲスト、外／内などのような二項の当事者間での立論しかなされていない。本研究で対象としている先述した来住者・一時的定住者の調査研究も地域社会研究、観光研究において重要な一領域を占めるはずであるが、先行する研究蓄積の不十分な領域である。過疎高齢化に喘ぐ地域社会は言うに及ばず、新規住民（I ターン）や再帰住民（U ターン）が地域社会を論じるうえで重要な因子であることは明白であるが、I ターンや U ターンなどの枠組みでは掬い取ることができないような人々が特徴的に存在していることは論じられていない。

本研究で対象としている先述した来住者・一時的定住者の調査研究も地域社会研究、観光研究において重要な一領域を占めるはずであるが、先行する研究蓄積の不十分な領域である。

２．研究の目的

本研究は現代の特に観光化や地域活性化の進められる地域社会において特徴的に観察される流動性・移動性の高い社会的存在の集合を事例として取り上げ、この社会的集合を構成する人々の社会的動態、当該集合の社会的機能、地域社会との相互作用の実態について、社会学的アプローチからの究明を目指すものである。

本研究はこの来住者・一時的定住者を選択的非定住民という社会的集合として捉え、フィールドワーク法による社会的動態の調査

研究を行なうことによって彼・彼女らの実像を浮き彫りにすると同時に、この種の社会的存在の社会的機能、地域社会との社会的相互作用について考察し、地域社会研究や観光研究における議論に理論的な検討を加えることを目的としている。

３．研究の方法

本研究はこの来住者・一時的定住者を選択的非定住民という社会的集合として捉え、フィールドワーク法による社会的動態の調査研究を行なうことによって彼・彼女らの実像を浮き彫りにすると同時に、この種の社会的存在の社会的機能、地域社会との社会的相互作用について考察し、地域社会研究や観光研究における議論に理論的な検討を加えるという研究方法を採る。

同時に質問票調査による量的把握の方法を採用した。質問票調査では地域社会における来住者・一時的定住者の多くを受け入れてきた地元社会のセクターとして、宿泊業者に着目し、長野県の来住者・一時的定住者を数多く受け入れてきた村において約700軒近く存在する全宿泊業者に対する質問票調査を行った。質問票調査では宿泊業主がどのようなかたちで来住者・一時的定住者を受け入れてきたのか、来住者・一時的定住者はどのような属性を有する人びとであるのか、来住者・一時的定住者に対して地元民である宿泊業者はどのような関係を取り持とうとしているのか、などについての質問項目を立て、調査を行った。

４．研究成果

本研究では、来住者・一時的定住者、および彼（女）らを受け入れる地元民への聞き取り調査から彼（女）らの個別の生活世界を浮かび上がらせるとともに、宿泊業主への質問票を用いた量的調査によって、来住者・一時的定住者の一般的・平均的な社会集団としての像を浮き彫りにした。

調査結果から明らかになった、来住者・一時的定住者の属性や社会的性格などは次の通りであった。来住者・一時的定住者としての彼（女）らは比較的年齢層の若い集団として構成されている。なかでも学生という社会的属性を有する時期に、来住者・一時的定住者として地域社会に流入してくるというルートが大きな回路であることが分かってきた。また、地域社会に流入してくるに当たって様々な回路が存在することが判明したが、そのなかでも学生スポーツとしてのクラブ・サークルという中間的な集団と個々の宿泊業主などの来住者・一時的定住者の受け入れ先が比較的固定的な関係を保ち続けるなかで、継続的に受け入れを可能にするとともに、地域社会にとってはフレキシブルで安価な労働力を確保する回路であったことが浮かび上がってきた。来住者・一時的定住者を受け入れる宿泊業主が構成する家族が経営する宿泊業というのが、調査地における宿泊業の種類のうちの大部分を占めているのであるが、そのなかには伝統的宿泊業主と非伝統的宿泊業主が存在し、そのどちらにおいても、来住者・一時的定住者は家族経営の宿泊業の構成員として受け入れられていることが判明した。家族構成員と同じような生活をし、同じような仕事を行うことで、単なる労使や雇用・非雇用という関係以上の関係を持ちうる可能性を潜在させていることが調査から明らかになり、また、そのことについては量的調査のなかでも、宿泊業主が来住者・一時的定住者である彼（女）らに対してどのような配慮がなされようとしているのかなどの質問項目からも明らかになってきた。来住者・一時的定住者と地元住民との間にどのような互恵的な社会関係が求められてきたのかが明らかとなってきた。

これらのことを踏まえて、前年度までに行ってきた量的調査・質的調査の分析を主にベースとしながら、平成22年7月に国際社会学会（VXII ISA WORLD CONGRESS OF SOCIOLOGY, Gothenburg）において研究発表を行った（” Local community in a mountain village and the life course of youth in Japan”）また、11月には第83回日本社会学会において研究発表を行った（「観光地における非典型労働者の地域的受容過程（１）」）。研究結果については調査地に対しては平成23年2月に報告書を作成して調査協力者に送付した。また、以上の研究についてまとめたものを論文として発表した（羽渕一代・井戸聡「若年流動層の地域的受容――白馬村の宿泊業調査――」『人文社会論叢（人文科学篇）』25号、弘前大学人文学部、平成23年2月）

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

羽渕一代・井戸聡、若年流動層の地域的受容――白馬村の宿泊業調査――、人文社会論叢（人文科学篇）、査読無、2011、23-37.

〔学会発表〕（計３件）

①井戸聡・羽渕一代、観光地における非典型労働者の地域的受容過程（１）、第83回日本社会学会、2010年11月7日、名古屋大学

②羽渕一代・井戸聡、観光地における非典型労働者の地域的受容過程（２）、第83回日本社会学会、2010年11月7日、名古屋大学

③井戸聡・羽渕一代、Local community in a mountain village and the life course of youth in Japan、ISA XVII World Congress of Sociology、2010年7月17日、Göteborg

６．研究組織
(1)研究代表者
井戸　聡（IDO SATOSHI）
愛知県立大学・日本文化学部・准教授
研究者番号：40363907